

男性が中心のマークツツ

マークツツは季節のかわり目に行う「節祭り」です。重税を納めるために過酷な日々を送ってきた村中の人々が集い、無事に税を納められたことを喜び合い、休息を取り、踊り楽しんだのが始まりだといわれています。



女性が中心のユークイ

ユークイは女性中心の祭祀で、宮古各地で大切にされてきました。ユーは「豊かな世」、クイは「乞う」を意味し、台風や干ばつなどの厳しい自然条件の中、集落の無病息災や五穀豊穡を祈ります。

池間島でもユークイは重要な祭祀のひとつとされ、旧暦の9月に行われます。池間島で育った、または池間島に居住している51～55歳の女性は「ユークインマ」と称されます。ユークインマたちは神歌をうたい、クイチャーを踊るなどして9つの拝所を巡拝し、神々に豊作や航海安全などの祈願をします。



いろいろな用途に使われた土地・スクニャー

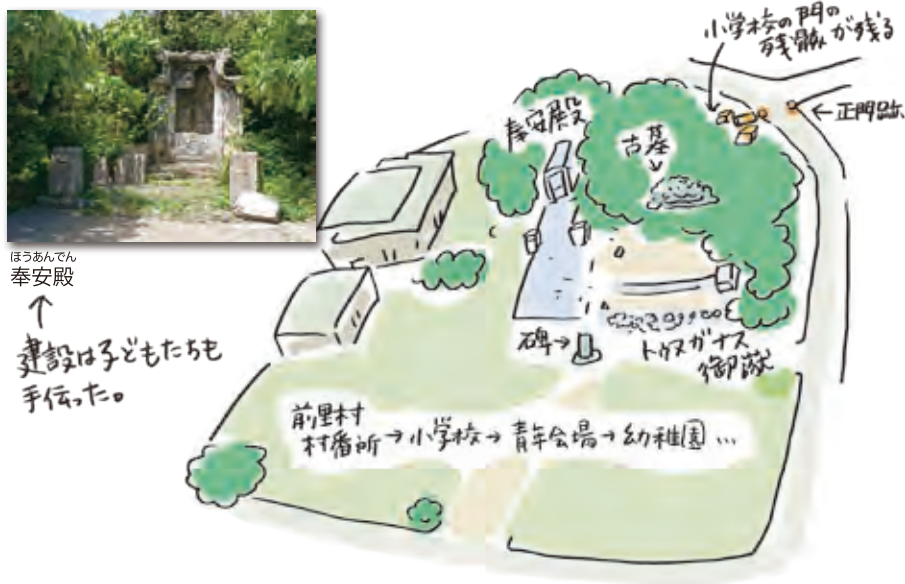
『池間小学校発祥之地』の碑が建つスクニャーと呼ばれるこの小さな一帯は、集落の歴史を垣間見ることができる土地です。

小学校跡地の東側にはトゥヌガナス御嶽があり、学問・出世の神が祀られています。その脇には円状に石を積み上げた古墓があり、漂着した遺体を埋葬したといわれています。

小学校が建てられる前は、前里村番所があり、1895(明治28)年には、西辺尋常小学校の仮教場として幕をあけました。1903(明治36)年に校舎が改築され、学校名も池間尋常小学校と改

称しました。ちなみに、この年に人頭税がようやく廃止されています。

この頃、各地の学校に設置された奉安室には、教育勅語と天皇・皇后の写真が収められました。池間は敷地内に奉安殿という独立した建造物として1928(昭和3)年に設置されており、前を通る際には最敬礼することとされていました。損傷が激しいですが、現存し、県内最古です。1938(昭和13)年に小学校は現在のユニムイの地へ移転しましたが、その後も、青年会場や幼稚園など、長く利用され続けました。



移住者を送り出しつづけた池間島

池間島は、小さい島ながら数百年にわたって移住者を送り出しつづけて、池間民族の歴史を築きあげてきた島ともいえます。

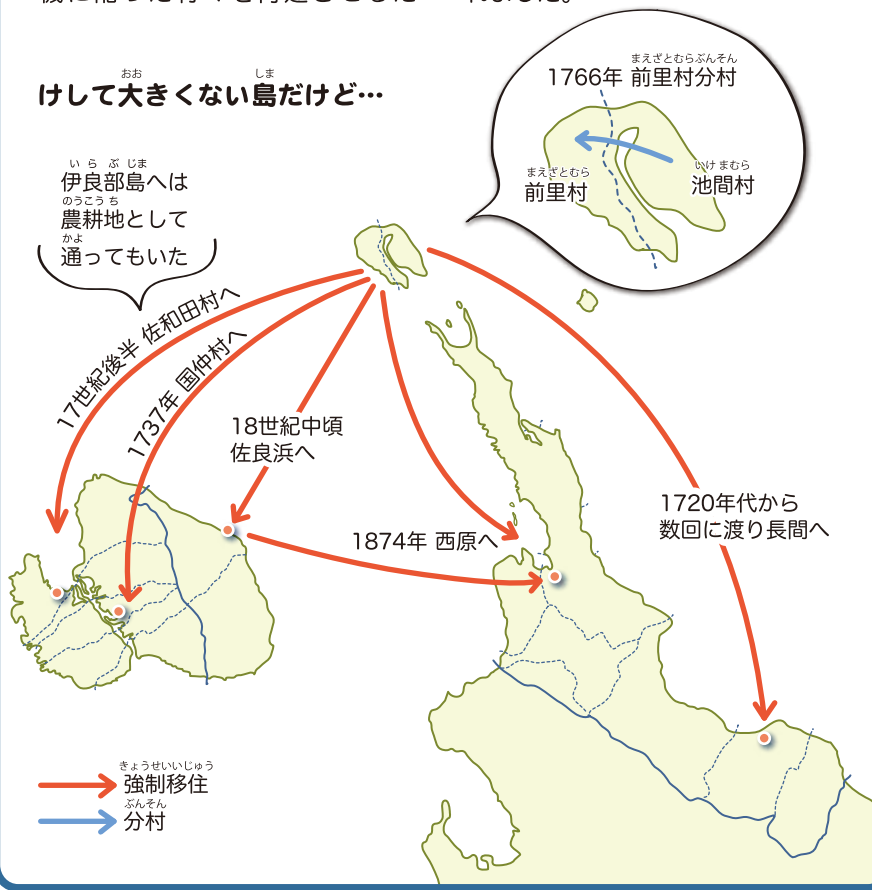
1600年代頃、宮古諸島内でマリアが大流行し、多くの人が亡くなりました。琉球王府は廃村の危機に陥った村々を再建させるた

め、池間島から伊良部島の佐和田村、国仲村、城辺の長間村へ強制的に移住させました。

1766(明和3)年には、人口増加に伴い、池間村から前里村が分村し、さらにその約100年後の1874(明治7)年に、西原村が村立てされました。

けして大きくない島だけど…

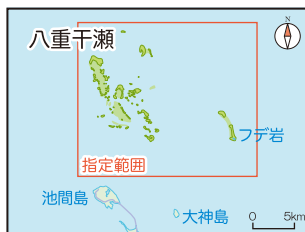
伊良部島へは農耕地として通ってもいた



八重干瀬



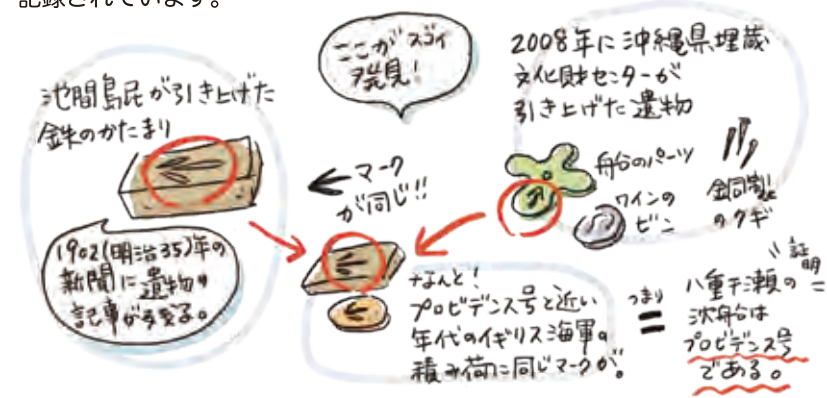
八重干瀬は、池間島北方5km先に広がる、大小100余りの日本有数のサンゴ礁群です。春から夏にかけての大潮の時期に、海面上に多くのサンゴが姿を現すことから「幻の大陸」とも呼ばれています。2013(平成25)年に国の文化財として指定され、翌年にフデ岩が追加指定されています。それぞれのリーフは細かく名前がつけられており、池間をはじめとする漁師の大事な漁場でもあります。



八重干瀬に沈んだプロビデンス号

1797年、イギリス軍艦プロビデンス号が、北太平洋海域の探検調査を目的としてイギリスからアメリカ、ハワイ、北海道の室蘭を経由し、宮古島沖の八重干瀬で座礁、沈没しました。座礁した詳細は、艦長のブロートンが著した『北太平洋探検航海記(1804)』に記録されています。

座礁地点の海底からは、散乱したワインの瓶や船のパーツ、イギリス海軍の刻印が入った鉄塊などが発見されています。プロビデンス号のほかにも、進貢船や外国船などが八重干瀬で座礁したという多くの記録が残されています。



地域の特徴ある埋蔵文化財公開活用事業第2回
『海の歴史にふれる～宮古島の水文化遺産～』
(2020年10月18日)より

本物の設計図から、細部にいたるまで
精密に製作されたプロビデンス号の模型

狩俣コース



散策コース →

所要時間：徒歩約30分
(約1km)

宮古島

古書には「ひゃんな山崎」と記されている。東辺安山崎より景色が穏やか

西平安名崎

池間島

池間大橋

狩俣のツナカキヤー
(追い込み漁) P32

ウヤンバー(西の浜)

シドウ崎

リュウキュウチシャノキ

2013年に
1本だけ発見
分布の北限が
宮古島に書き換えられた!

昔、大津波の波が
ここまで来たと
言われている
ズブ＝目印

ツナミズブ(津波到達地点)

狩俣集落センター

狩俣購買店

西の大門

START

神役のみが使用する門。
一般人は立入禁止

北門(トゥクーピトゥイ)
(祭祀用の門)

モズク魚

狩俣は宮古を代表する
養殖モズクの産地。
1977年「狩俣モズク生産
グループ」設立

10月頃 種付け
3月頃 収穫
5月頃 シーズン
終了

大きなホースで
ズズー!!
と
吸いとる

ナビダ(長浜)

郡杜(大城山)

仲間ムトゥ

大城ムトゥ

狩俣の植物群落 P27

神様が降り、通る場所。
ウハルズとも呼ばれ、祭祀で
大事な役割を持つ

志立ムトゥ

天道

イスッガー(磯井) P26

クスヌカー(後の井) P26

先島諸島火番盛
狩俣遠見 P50

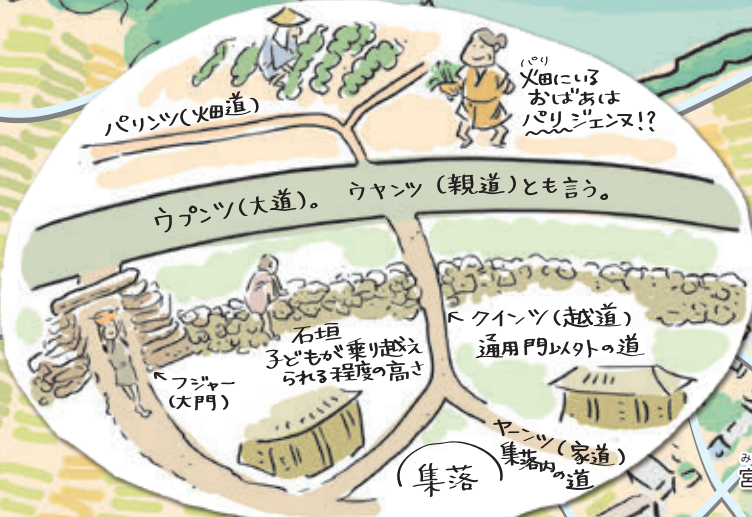


方位石
北
方向が刻まれている

明治の頃までは
3坪ほどの
遠見番屋が
残っていた。

昔は大きな魚垣が
ずっと並んでいた

カキス(魚垣) P53



パリンツ(火田道)

ウヤンツ(親道)とも言う。

クインツ(越道)
通用門以外の道

石垣
子どもが乗り越え
られる程度の高さ

フジャ(大門)

ヤンツ(家道)
集落内の道

集落

宮古島市立狩俣小学校

ウヤンツ

四島の主の墓(2) P09

ズーガー

東の大門

仲嶺ムトゥ

クバラバアズのイビ

千瀬道

神女たちが神歌を
歌いながら、はだして
歩いた神の道(カンヌツ)

スガミヌカー P10

宮古島市立狩俣中学校

平良市街

島尻

※集落内の拝所や郡杜に許可なく立ち入ることは禁じられています

集落を囲む石垣と大門(推定)

狩俣



狩俣は三方を海に囲まれ、農業を基盤とし、沿岸漁業も盛んです。『宮古八重山両島絵図帳(1647)』には、「かりまた村」と「根井間村」が記され、のちに統合されて「狩俣村」になりました。

明治の頃までは、集落は石垣と3つの門で囲われていました。これは他の地域では見られません。石垣の撤去は長い間避けられてきましたが、1900年代に人口増加にともない、集落の発展という名目の元、西の大門と石垣が取り払われました。北西にある祭祀用の石門は往時のままで、東の大門はいまの生活に合わせて改修されています。集落内には4つのムトゥがあり、夏ブースや竜宮願いなどの祭祀が行われています。

狩俣の村立ての伝承

昔、豊見赤星テダナフラ真主という女神が、当原という地に天から降り立ちました。ところが当原の地は水がなく大変困ったので、島尻の海岸を北へ移動し、イスウガー(磯井)を見つけ、大城山(郡杜)に住み始めました。

ある夜、真主は名も知らぬ若い男との間に子を授かる夢を見て懐妊し、7か月後に元気な男女の双子を出産しました。しかし、父親が誰なのかわかりません。

そこで真主は「初めて会う者を父親にしよう」と決め、ふたりを抱いて出かけました。真主が大城山の裏の瀬(パナブツ)まで来ると、大岩を這う大蛇と出会いました。大蛇は3人を見るなり、首を上げ、尾を振り、踊りはじめました。真主は「きっと夢の中の男は、この大蛇の化身に違いない」と確信し、大蛇を子どもたちの父親にしました。

『御嶽由来記』(1705)

狩俣集落は、この女神豊見赤星テダナウラ真主から始まったと伝えられます。

真主の息子「バブノホチテラヌホチ豊見(ティダノブス)」は、集落の氏神として崇敬されています。娘の「山ノフシライ青スバノ真主」は、15歳くらいの頃、青スバ(つる草)で作った冠をかぶり、白衣を着てコウズ(蔦かづら)を腰に巻き、髪を振り乱して「私は世のため神になる」と言って大城山に籠ったのち、行方知らずとなってしまいました。

その後、集落では神女たちがフシライと同じ姿で大城山に籠り、祖神祭(ウヤーン)を行うようになったといわれています。

参考『自治百年』(2003)



イスッガー(磯井)

クスヌカー(後の井)



イスッガー



クスヌカー

イスッガーは狩俣集落発祥に関わる井泉で、古謡には「豊見赤星テダナフラ真主」によって発見されたとうたわれています。祭祀の際に、お茶湯の水として必ず加えられ、村立ての根幹に関わる貴重な井泉です。

クスヌカーは、時の酋長「大城殿」が掘った井戸で、掘削にあたり、鉄製道具を使ったと古謡にうたわれていることから、鉄器の伝来にも関わる重要な井泉と考えられています。

ふたつの井戸とも市の有形民俗文化財に指定されています。

狩俣の植物群落



狩俣の植物群落は、集落後方の南北に伸びる丘陵に広がっています。宮古諸島内では最大規模の面積を有する自然林です。この丘陵は地形や地質など変化に富んでおり、その環境に合わせた様々な種類の植物が群生しています。

群落は古くから郡杜(大城山)と呼ばれ、磯津御嶽や大城御嶽など、集落にとって重要な拝所が存在するため、立ち入りが禁じられ、植物群落全域が神聖な場所として大切に保護されています。

クバラパーズの復讐

宮古各地に有力な按司が立ち並んでいた頃、クバラパーズとその妹が、琉球の津堅島から白川浜に漂着し、しばらくそこで暮らしていました。そのうち妹が石原城の思千代按司の妻になったので、クバラパーズは住み良い地を求め、狩俣に移り住みました。

クバラパーズは生まれつき妖術・占術に長け、その上とても器用で、狩俣集落を囲う石垣や門などを見事に造りあげました。

ある日、妹が夫の思千代按司と長男を糸数按司に暗殺されたと泣きながらに訴えてきました。怒ったクバラパーズは「いつか絶対に仇を討つ」と心に誓いました。

そんな折、糸数按司から「城が狭くなったので大きな城を造って欲しい」と依頼されました。しかしこれはクバラパーズの仇討ちのことを知った糸数按司の罠でした。

ところがクバラパーズは罠であることを簡単に見抜きました。「いよいよこの時がきた。城は造らず、棺

桶を造ることになるだろう」と、平良へ出立しました。

道中、平良の手前にあるソノリ嶺の坂道で、クバラパーズが木の葉に呪いを唱え、ふっと息を吹きかけると、木の葉は蛇になり、勢いよく城へと飛んでいきました。クバラパーズは、糸数城が見える所まで悠然と向かいました。

その頃、糸数按司は城の厠で用を足しながら、長い鉄製のかんざしで耳かきをしていました。その按司の手に、蛇が強く噛みつきました。何度追ひ払っても蛇はしつこく噛み続けるので、怒った按司は、手に止まった蛇をもう一方の手で思いっきり叩きました。ところが勢い余ってかんざしで耳の奥の急所を刺してしまい、死んでしまったのです。

こうして、見事クバラパーズは仇討ちに成功し、予言どおり、持参した大工道具で糸数按司の棺桶を造り、狩俣へ帰って行きました。



13～14世紀 宮古の豪族とグスク

12世紀前後から16世紀頃まで続いた時代を、沖縄では「グスク時代」と呼んでいます。この頃、各地の有力者らは城を築き、それぞれの周辺地域を支配するようになりました。

この時代は、島外から新しい文化が持ち込まれ、人々の交流が盛んになり始めた時代でもあります。また鉄器の普及により、農耕が発達した時代で、人口も急激に増加していきました。

14世紀頃は群雄割拠の時代で、佐多大人と目黒盛が台頭し、二大勢力が争った結果、目黒盛に統一されます。

その後、15世紀後半頃から、仲宗根豊見親の時代へと移り変わっていきます。

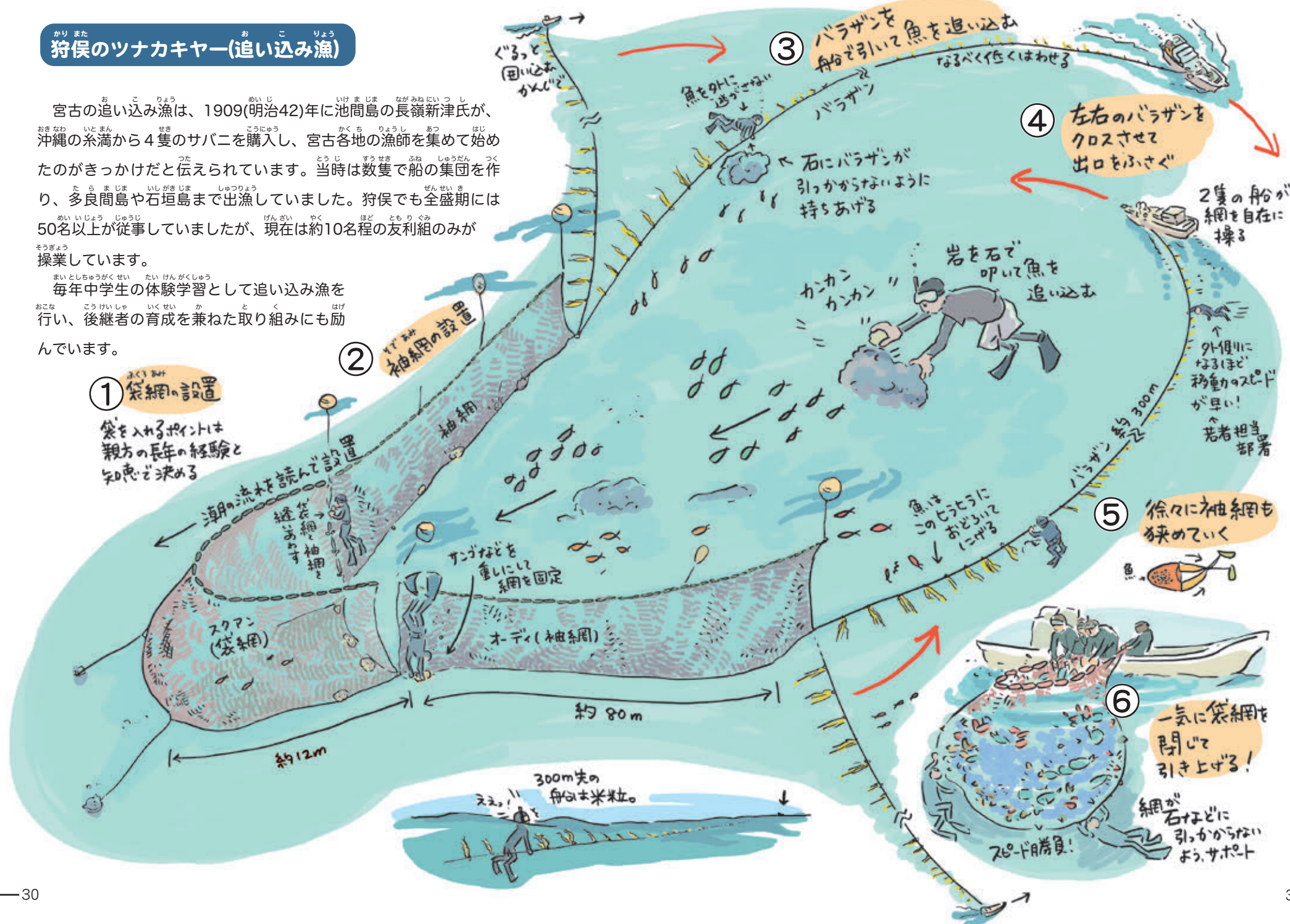


※城の位置など詳細がわかりません

狩俣のツナカキヤー(追い込み漁)

宮古の追い込み漁は、1909(明治42)年に池間島の長嶺新津氏が、沖縄の糸満から4隻のサバニを購入し、宮古各地の漁師を集めて始めたのがきっかけだと伝えられています。当時は数隻で船の集団を作り、多良間島や石垣島まで出漁していました。狩俣でも全盛期には50名以上が従事していましたが、現在は約10名程の友利組のみが操業しています。

毎年中学生の体験学習として追い込み漁を行い、後継者の育成を兼ねた取り組みにも励んでいます。



島尻コース

散策コース → 徒歩

所要時間：車と徒歩約1時間
(約3km)

スマズ
島尻 = 尾っぽ

魚垣の跡

こまかい泥岩でできているので、この岩から石を採取していた

トウスイトイバナリ

海の中に石積が残る

P

ばたらすばし渡地橋

ニナミゼハヤ

水に入るのがキライな魚!?

ばたらすばしと渡地橋跡 P10

P

ニナミゼハヤの巣

このあたりは水田だった

島尻のマングローブ林 P43

マングローブと生物たち

マングローブとは、潮の満ち引きする場所に生育する植物の総称。

島尻には4種類

1. ヤエヤマヒルギ
2. オヒルギ
3. メヒルギ
4. ヒルギタマシ

宮古が北限

樹高1-3m
丸い葉
裏側は白っぽい
根が直立

開発などで消失し、島尻と嘉手苅のみに。

近年、開発や外来種の侵入などで生態系が単純化している...

230

島尻断層崖と海食台 P40
シマジリクジラ化石 P41

大神島

島尻元島とシナカガー P35

くばま小浜

START

集落ではシナカガーと呼ぶ

方位石が設置され、大神島が正面に見える。シセ間から城辺まで一望できる

先島諸島火番盛 島尻遠見 P50

パーントウの里会館

島尻パーントウ
こうばいてん
購買店

あぎいす

むらばんしよあと村番所跡

宮古島のパーントウ P36

シナリガー P38

元宮島小学校

リュウグウダー

いしきりば石切場 P52

水量は豊富。山田川にちなみだ「山田会」というお茶会が30年以上続く。それだけ大事な井戸だった。

やまだがー山田井

※集落内の拝所に許可なく立ち入ることは禁じられています